



総合教育センターだより

Be Connected



平成24年3月16日(金)
第36号(通算第119号)
京都府総合教育センター
TEL: 075-612-3266

出前講座 今年も大好評 合計224件

所員が、学校に出向いて、各校のニーズに応えた講座を実施している「出前講座」。今年度も校内研修や各研究会等で多数ご活用いただき、ありがとうございました。



- ◆学校をはじめ、各研究会、教育委員会などで、延べ4,839名が受講しました。
- ◆「小学校国語科教育」講座の申し込みが最も多く、計44件実施しました。また、次の講座にも多くの申し込みがありました。
 - 「小・中学校『ことばの力』」講座(33件)
 - 「教育相談」講座(22件)
 - 「小学校算数科教育」講座(14件)
 - 「小学校家庭科教育」講座(12件)



子どもと向き合う時間を大切にできます



現場を離れないで研修できるので、子どもと向き合う時間が確保できます。

職場の活性化につながります



校内の教職員全員もしくは、関係者全員で受講できるので、同僚とのコミュニケーションが図れ、組織の活性化につながります。

- これまで何となく大切だと思っていたことが、具体的な事実を示していただいたり、ワークショップをしたりしたことにより、確信に変わりました。今日学んだことを、必ず試してみます。
- 自分の学校の職員みんなで、同じ話を聞いたので、これからの教科指導について、力を入れて取り組む内容が共通理解できてよかった。
- 教材分析等、本にはなかなか書いていないこと(書かれていても理解しにくい面もあります。)を、具体的に教えていただけて嬉しかったです。

受講者の声



平成24年度 新規出前講座(予定)

平成24年度も、一層の内容充実をめざしますので、積極的にご活用ください。

- 「小学校外国語活動」講座
- 「小学校道徳教育」講座
- 「中学校授業力向上」講座
- 「中学校道徳教育」講座
- 「中学校生徒指導」講座
- 「校内研修推進」講座

内容	件数	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他研究会等	
小学校	国語科教育講座	44	43	0	0	1	
	社会科教育講座	1	1	0	0	0	
	算数科教育講座	14	14	0	0	0	
	理科教育講座	6	6	0	0	0	
	音楽科教育講座	8	7	1	0	0	
	図画工作科教育講座	5	5	0	0	0	
	家庭科教育講座	12	12	0	0	0	
	体育科教育講座	4	4	0	0	0	
	生活科教育講座	3	3	0	0	0	
	中学校	理科教育講座	1	1	0	0	0
		実技教育講座	3	0	2	1	0
国語科教育講座		1	0	1	0	0	
数学科教育講座		2	0	1	0	1	
英語科教育講座	2	0	2	0	0		
情報教育講座	6	1	0	4	1	0	
小・中学校「ことばの力」講座	33	23	4	0	0	6	
特別支援教育講座	11	5	4	0	1	1	
教育相談講座	22	8	6	0	1	7	
その他	46	24	17	3	0	2	
合計	224	157	38	8	4	17	

「つまずき」を見つけて、指導に生かせる！

プリント枚数
小学校約1700枚
中学校約600枚

9年間の学びを応援



当センターでは、児童生徒の個別学習を支援する「算数ナビつ〜る」（試作版）を昨年度開発し、各校に配付しました。今年度、試作版の機能を強化するとともに、小学校から中学校までの9年間の児童生徒の学びを支援する「算数・数学ナビつ〜る」を新たに京都教育大学渡邊伸樹教授他とともに開発しました。

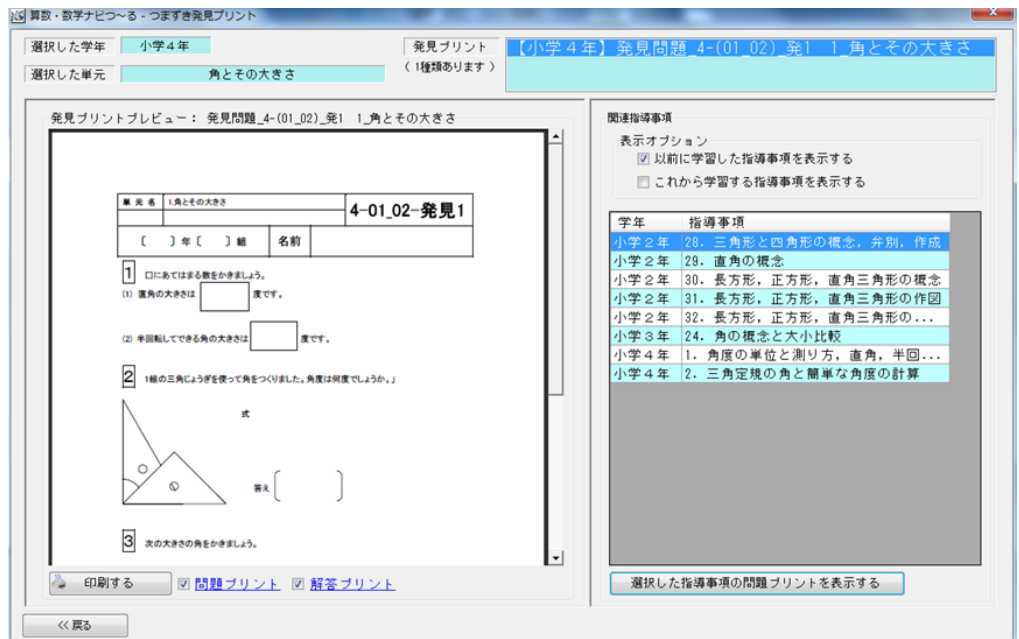
今回、配付するDVDには、新しい小・中学校学習指導要領に準拠した算数・数学科の学習問題が、単元ごとに数枚程度のプリントとして収録されています。また、検索機能をさらにパワーアップさせるとともに、各単元に「つまずき発見プリント」として、児童生徒のつまずきが発見できる機能を追加しました。

この「算数・数学ナビつ〜る」は、3月末に各学校に配付する予定です。

すべての小・中・特別支援学校にDVDを配布



どのようにして、つまずきを見つけるのかな？



DVDには、各学年にわたって、各単元のプリントとともに、上のような「つまずき発見プリント」がついています。「つまずき発見プリント」の画面には、上図の右にあるように、現在取り組んでいる単元に関連する「これまで学んできた指導事項」が表示されます。

「つまずき発見プリント」で間違ったところがあれば、関連する指導事項をクリックすることで、その指導事項のプリントを画面に表示することができます。そのプリントを順に解いてみることで、児童生徒のつまずきを発見できるとともに、課題を克服し、基礎・基本の確実な定着を図ることができます。

児童生徒が9年間を通して算数・数学の確かな学力をつけられるよう、今回お送りした「算数・数学ナビつ〜る」を大いにご活用ください。

算数ナビつ〜る（試作版）に比べて

「算数・数学ナビつ〜る」には、他にもこんな特徴が！

- 教科書の問題を追加し、授業の場面での活用や家庭学習での活用に対応しました。
- 中学校の「進路実現」の取組等に対応するため、過去の京都府公立高校の入学検査問題（計算問題を中心とした基礎的な内容）等を収録しました。
- 自学自習を支援するツールとして児童生徒自身が操作できる機能を追加しました。
- 京都教育大学渡邊伸樹教授他の協力を得て、問題、指導事項の関連の信頼性を向上しました。

単元名や指導事項からも検索できます。



学習指導案の
スタンダードを
示しました。

質の高い学力を
育成する

学習指導案ハンドブック

質の高い学力を育成する
学習指導案
ハンドブック



平成24年3月
京都府総合教育センター

学習指導案は、日々の授業の設計図(進行表)であり、授業研究の資料となります。創意ある学習指導案を作成することは、充実した授業に直結し、児童生徒に質の高い学力を身に付けさせる上でとても重要です。

学習指導案を作成するときの手引きとして、この冊子では3つの様式を例示しています。また、各項目の解説、作成の際の手順や留意点も掲載しています。目的や場に応じた、機能的で創意ある学習指導案を作成する際の参考資料としてご活用ください。

3つの様式 目的に応じて3つのパターンの学習指導案を提示

基本型

初任者研修で示す様式。学習指導にかかわる基本的な知識や方法などを学ぶため、学習指導案に備えるべき項目や内容を省略せずに構成。

研究発表会型

研究発表会や実践発表のための様式。基本型の項目のいくつかを省略し、研究や授業のねらいに即して焦点化を図って構成。

本時中心型

校内研修会等の協議資料とするための様式。できる限り簡略化し、1時間の授業の具体的な指導方法に重点を置いて構成。

項目の解説 学習指導案を構成する項目について、詳しく解説

単元名、教材名、本時の目標など学習指導案の各項目が何のために設定され、どのような内容を記述すればよいのかについて、共通理解を図っておきたい内容を、基本型に即して解説しました。

指導案作成の手順と留意点 6つのステップで作成手順を解説

- | | | | | | |
|-------|---|-----------------|-------|---|----------------|
| ステップ1 | ⇨ | 学習指導要領の確認 | ステップ2 | ⇨ | 児童生徒の実態と課題分析 |
| ステップ3 | ⇨ | 単元目標・単元の評価規準の設定 | ステップ4 | ⇨ | 単元指導計画と単元の評価計画 |
| ステップ5 | ⇨ | 本時の学習指導案 | ステップ6 | ⇨ | 本時の評価計画 |

この学習指導案ハンドブックは平成23年3月に刊行し、4月に各小・中学校及び特別支援学校の教職員に配付します。高等学校には各校に1冊ずつ配付します。また、冊子の内容はITEC(センターホームページ)にも掲載します。



別室登校Ⅱ～教室復帰に効果的な関わり～

今年度の研究の成果

これまでの研究と 今年度のテーマ

昨年度、「別室登校」児童生徒の支援の在り方について研究をはじめました。その中で、小学校では学級や部活動の友人関係を持つこと、中学校では教科指導・学習指導を通じた教職員の関わりが教室復帰に効果があること等の知見を得ました。

今年度は、「別室登校」児童生徒の教室復帰に効果的な教職員の関わりに焦点をしぼり、研究指定市の学校の「別室」担当者、該当児童生徒の学級担任、保護者、該当児童生徒に対してアンケート調査等を実施し、研究を進めました。

研究の結果から、「別室登校」児童生徒に対する教職員の関わり方の基盤を成しているのは、「直接的コミュニケーション」であることがわかりました。小学校ではとくに「教室とのつながり」を意識して関わることで、中学校では教職員と直接的に会話などを通じて個別につながることが大切であることがわかりました。また、該当児童生徒が「別室」での活動に居心地のよさや意味を感じる関わりを行うことが大切であることや、教室復帰に向けて心の準備が整っているかを丁寧に見極めた上で「『別室』外との関わり」を増やすことが大切であることもわかりました。

今年度の研究の詳しい結果については、今後、研究冊子等を学校に配布し、お伝えする予定です。

【保護者から】

- 教室に入れなくても「別室」に行くことで学校とつながっている安心感がある。
- 「別室」では、先生が子どもに寄り添い、子どものペースを大切にしながら少しずつ進んでもらえて、良かった。

【児童生徒から】

- 学習しながらいろんな先生と話したことがよかった。
- 相談にもう少し親身になってほしい。など、感謝や不安、期待が伝わってきました。

平成24年度 5月講座のお知らせ

平成24年度、京都府総合教育センターでは、学校・教職員の皆様のニーズにお応えできるよう研修講座をますます充実させます。詳しくは、センターだより4月号及び、各校へお送りする「研修講座の概要」をご覧ください。
なお5月実施の研修講座については、学校からの申し込み締め切りは4月20日(金)です。お忘れなく！！



講座名	定員	実施日	内容
府立学校技術職員 「校務」講座 【会場：京都府立農芸高等学校】	20名	5月15日(火)	京都府における教育改革の推進、学校安全のための危機管理対応について講義から学び、実技実習(園芸)を通して学校環境整備に生かす実践的な技術の習得を目指す講座です。
道徳教育推進講座 【会場：総合教育センター】	350名	5月18日(金)	道徳教育推進教師の役割、全教職員で取り組むための体制づくり、諸計画の整備と魅力ある道徳の時間のポイントについて学ぶ講座です。 ※道徳教育推進教師等は、できるだけ受講してください。 【講師：東京学芸大学 教授 永田 繁雄】
「学校運営のためのメンタルヘルス」講座 【会場：総合教育センター】	100名	5月28日(月)	教職員の心の健康に関する、必要な知識・技能を学び、管理監督者として組織的・計画的にメンタルヘルス対策を進めるための方法等について演習を交えて学ぶ講座です。 【講師：(財)京都工場保健会 専任カウンセラー 山根 英之】
特別支援学校・学級 新任担当者講座Ⅰ 【会場：総合教育センター】	30名	5月31日(木)	新たに特別支援学校・学級の担当者になれる方を対象とした講座です。Ⅰ～Ⅳの4講座を開設していますのでニーズに合わせて受講して下さい。

特別支援教育プロジェクト



「通常の学級におけるユニバーサルデザインの研究」(平成23～24年度)

「ユニバーサルデザイン」は1980年代に生まれた概念です。製品、施設、情報などの分野で「最大限可能な範囲ですべての人が利用することができる」ように計画・設計していくという考えから始まりました。

最近では、「教育のユニバーサルデザイン化」あるいは「ユニバーサルデザイン授業」という言葉が使われていますが、大意は「特別な支援が必要な子どもに配慮した授業は、学級内の他の子どもにとってもわかりやすい授業となる」ということです。

京都府総合教育センターでは、2校の小学校に研究協力を委嘱して2カ年計画でこの研究に取り組んでいます。

研究協力校

- ・福知山市立雀部小学校
- ・木津川市立梅美台小学校

お知らせ

今回、京都府総合教育センターの紹介動画をリニューアルしました。ITEC(センターホームページ)に掲載していますので、ぜひご覧ください。

～メンタルヘルスひとロメモ～

ストレス対処法として、これから起こりうる事態を予測して自分の行動をシミュレーションしておくことが役に立ちます。また、予測できない状況に直面したときには、それまでの考え方にとらわれずに柔軟に思考することも大切です。そうした思考の応用力を鍛えることで不安をストレスではなく、挑戦としてとらえることができるようになるかもしれません。ストレスへの対処については、総合教育センター教育相談部(申込先：mental@kyoto-be.ne.jp)や、「教職員健康相談24」でも相談できます。

